死んでしまうとは情けない

作：岡部　竜弥

少年
ゆうじん
いじめっ子
とりまき
かあさん
とうさん
せんせい
好きな子

彼は「ゆうしゃ」になり下がる

【1】

一同　バシ、バシ、バシ。

少年、剣を振るう。

一同　だだだだだだ。

少年、魔法を放つ

一同　しかし、効果がないようだ。

少年、魔王に攻撃を受ける。

一同　ぐわっ！きゅぴきゅぴ、キューン。

少年、快復魔法を自分に掛ける。

一同　体力が百、快復した。

少年、魔王の攻撃をだまって見つめる。

一同　会心の、一撃！

少年、攻撃を受けて死んでしまう。

一同　勇者は死んでしまった。

少年、寝たまま。

一同　おお、勇者よ。死んでしまうとは情けない。

【2】

少年　おはようございますおはようございます。僕は小学二年生。元気活発男の子。
昨日は何をしていたっけ。
ああ、そうだ。ゲームを遅くまでやっていて、魔王に負けて拗ねてたら、そのまま寝ちゃってたんだ。今は大体六時半。あと一時間で家を出なくちゃ。
かあさーん、朝ごはんは。
なあに・・・？

かあさん　そこにバナナとパンが置いてあるから、適当に食べといて。
少年　うん・・・
かあさん　じゃあ、お母さんもう出るから。夜ご飯も電子レンジの上に置いてある千円札で、適当に。
少年　うん・・・

母さん、仕事に行く。

少年　と、母さんが出て行ったところで、ご飯の準備。今日のパンはリョーユーパンの、マンハッタン。袋を開けてアルミホイルをしいて、オーブンでチン。このひと手間でだいぶ違う。なんて素敵で優雅な朝食。チン。までの一分間。服を着替えてしまおうか。かけてあるハンガーをとって。
一同　ゆうしゃ は はんがー を そうび した。
少年　来ているパジャマを脱ぎ捨てて。
一同　ゆうしゃ は ぱじゃま を はずした。
少年　着ていく服に袖を通して。
一同　ゆうしゃ は ゆにくろ を みにつけ た
少年　ハンガーをかける。
一同　ゆうしゃ は はんがー を はずした。
少年　あれれ？
――――チン
と音がした。マンハッタンのチョコの匂い。優雅な優雅な朝の匂い。疑問なんて吹き飛んだ。冷蔵庫を開けて、ミルクを取って、コップに注いで。お皿の右へ。いたいただきまーす。
一同　ゆうしゃ は ゆうがなちょうしょく を つかった。たいりょく が いち かいふく した。

【3】

少年　優雅なひと時が終わって、おはスタを見て、家を出た。今日は僕しかいないから、行ってきまーす！
いつも通りに二十メートルまっすぐにい歩いて、左に曲がって、五メートル。もう一回左に曲がったところで。
ゆうじん　おはよう！
少年　おはよう。
ゆうじん　どうしたの？ やけに眠そうだね。
少年　こないだかしてもらったゲーム。魔王が倒せなくて夜更かししちゃった。
ゆうじん　なるほどー。確かにあのゲーム、難しいもんね。
少年　授業中に、寝ちゃいそうだよ。
ゆうじん　そうだ、あの魔王の倒し方、教えてあげよっか。
少年　うーん。いいや。もうちょっと自分で頑張ってみる。
ゆうじん　わかった。
それにしてもいいね、君んちは。
少年　何がさ。
ゆうじん　夜更かししても怒られないなんて僕んちだったお母さんがかんかんだよ。
少年　母さんは知らないよ。
ゆうじん　え？
少年　僕が起きてる時間には帰ってこないんだ。お仕事で。
ゆうじん　夜更かししても？
少年　夜更かししてても。
僕が寝た後に帰ってきて。僕が起きた頃に行っちゃうんだ。
ゆうじん　ふーん。なんかさみしいね。じゃあ、お父さんは？
少年　仕事がとっても忙しくて週に一度しか帰ってこないんだ。
ゆうじん　へー。

いじめ　おいおまえら。
とりまき　おいおまえら
二人　ドキッ。

一同　いじめっこ と とりまき が あらわれた。

いじめっこととりまき、二人の背中を蹴る。

一同　いじめっこ と とりまき の こうげき ２ の だめーじ
いじめ　おい、みろよ！ 蹴ったら転んだぞ！
とりまき　蹴ったら転んだね！
いじめ　おい、お前ら！
とりまき　お前ら！
いじめ　朝から、気持ち悪い面見せやがって！ 懲らしめてやる！
とりまき　懲らしめてやる！

いじめと、とりまき、二人をぼこぼこにする。

一同　いじめっこ と とりまき の こうげき
２ のだめーじ
２ の だめーじ
２ の だめーじ

少年　あれ？ あれれ？

一同　２ の だめーじ
１ の だめーじ。
かいしん の いちげき。

いじめ　ここら辺にしといてやる。感謝するんだな！
とりまき　ありがとう
いじめ　お前じゃねえ！

二人、学校へ行く。

ゆうじん　いててててて。大丈夫？
少年　・・・うん、何とか。君は？
ゆうじん　大丈夫。怪我とかは？
少年　ないよ。君は？
ゆうじん　僕もない。
二人　ふう、よかった。
少年　なんなんだよあいつら！ 毎日毎日！
ゆうじん　どうにかできないかな。
二人　うーん。・・・そうだ！

少年　あいつらを泣かしちゃえばいいんだ！
ゆうじん　あいつらと友達にしちぇばいいんだ！
少年　え？
ゆうじん　え？
少年　何を言ってるんだい君は、あんな野蛮な奴らと仲良くなるなんて！
ゆうじん　君こそ何を言ってるんだい。暴力なんて野蛮だよ！
少年　野蛮なやつらに好き勝手にやられるくらいなら、自分が野蛮になって泣かせてやる。
ゆうじん　それじゃミイラ取りがミイラだよ！ それにだいたい、君は喧嘩がてんで弱いじゃないか！
少年　ふふふ、君は何時までの僕の話をしているんだい？ 僕はあの日から日々研鑽を重ね、音速の速さのこぶしを手に入れたのさ。
ゆうじん　なんだって。いったいいつどこでそんな力を！
少年　夜！ ヴァーチャルで！
ゆうじん　ゲームかよ！
少年　ふふふ！ どうやら信じられないみたいだな！ 見せてやろう僕のこの音速のこぶしを！
ゆうじん　かかってこい！

一同　ゆうじん が あらわれた。

少年　うおおおおお！

一同　ゆうしゃ は おんそくのこぶし を くりだした。

ともだち　なんだいこのスローなこぶしは！ 止まって見えるね！ 音速が聞いてあきれるは！ はーはっはっは！ ・・・見えるからと言って避けられるかどうかは別の話！ 顔がー！

少年のこぶしが友人の顔に当たる。

一同　ゆうじん に １ の だめーじ

少年　はーはっはっは！ 見たか僕の音速のこぶしを！ いや、見えるわけがない、何故なら音速なのだから！ ・・・当たったからと言って手がパンチの衝撃に耐えられるかどうかはまた別の話！ 手首がー！

一同　ゆうしゃ に ２ の だめーじ

少年　はあ、はあ。どうやら引き分けのようだね。

ゆうじん　殆ど君の負けだと思うけどね。
まあとにかく、僕と相打ちになるような君が、あいつらに勝てるわけがないじゃないか。

少年　そんなことといったら、君だってあんな奴らと仲良くなれると思ってるのかい？

ゆうじん　なれるさ。人類皆兄弟！ 話の通じない人間はいないさ！

少年　じゃあやってみろよ！ 僕があいつらの真似するから。

ゆうじん　いいよ。

一同　ゆうしゃ は ものまね を した

少年　おい！ お前なにしてんだよ！

ゆうじん　君たち！ もうやめにしない？ こんなことをしても――――

少年　（ゆうじんにビンタ）

一同　ゆうしゃ の こうげき
ゆうじん に １ の だめーじ

ゆうじん　君も、何かあってそうなってしまったんでしょ――――

少年　（ゆうじんにビンタ）

一同　ゆうじん に １ の だめーじ

ゆうじん　話あおう！ きっ――――

少年　（ゆうじんにビンタ）

一同　ゆうじん に １ の だめーじ

ゆうじん　だか――――

少年　（ゆうじんにビンタ）

少年、友人が喋ろうとするたびにビンタをする。

ゆうじん　できるか！！ せめて話を聞いてくれ！
少年　あいつらだっていっしょさ！ 話なんて聞きやしない！
ゆうじん　じゃあどうやればいいのさ！
少年　だから腕っぷしで――――
ゆうじん　それも無理だろ！ 君の腕っぷしじゃ。
少年　じゃあ、一体どうすればいいんだよ・・・
ゆうじん　・・・どうしようもないんじゃない。

二人、大きく溜息をつく。

少年　もう！（地団駄をふむ）

一同　ゆうしゃ の こうげき
じめん に 1 の だめーじ

少年　・・・あのさ。
ゆうじん　どうしたの？
少年　きこえる？
ゆうじん　何が。
少年　さっきから流れてる、メッセージみたいなやつだよ
ゆうじん　メッセージ？
少年　1のダメージとかそういう。
ゆうじん　なにそれ。ゲームのし過ぎで現実と空想の区別がつかなくなったんじゃない？
少年　そんなこと――――そうなのかな。夜更かしのせいかなあ
ゆうじん　いったい何時まで起きてたのさ？
少年　十時半。
ゆうじん　へえ・・・・・・・十時半！？　そんなのもうほとんど明日じゃないか！
少年　日々研鑽を重ねていう僕にとって、十時半なんて、今日さ！
ゆうじん　すげーー！ あたりまえだーー！！

少年　よし、そろそろ学校に向かおう！
ゆうじん　そうだね。
二人　がらがら。

【４】

少年　二年三組１２番。三号車の前から二番目の右。そこでいつもの授業を受ける。
とうさん　こくご
せんせい　さんすう
かあさん　りか
すきなこ　しゃかい

少年　一番苦手なのは
一同　さんすう

せんせい　１０＋２は？
少年　１ですか？
せんせい　５＋６は？
少年　４ですか？
せんせい　３×６は？
少年　２ですか？
せんせい　全部間違いじゃないか。
少年　すみません。よくわかりません。
せんせい　宿題はちゃんとやってきているというのに、どうしてこんな簡単な問題も解けないんだ。
少年　すみません。よくわかりません。
せんせい　努力が足りないんじゃないのか？
少年　すみません。よくわかりません。
せんせい　みんなも、こいつみたいになるんじゃないぞ！！
一同　はーい！

ゆうじん　今日も災難だったね。
かあさん　（同級生）おーい。
ゆうじん　あの先生、意地が悪いから僕嫌いだよ。
とうさん　（同級生）おーい
ゆうじん　だから気にしないでさ。
とりまき　おーい。
ゆうじん　なにさ
いじめ　そいつとは話さない方がいいぞ
とりまき　いいぞー

ゆうじん　なんでさ！　誰と話そうが僕の勝手だろ。
いじめ　そいつが馬鹿だからさ！
とりまき　だからさ！
いじめ　馬鹿なそいつと話してたら
とりまき　話してたら！
いじめ　そいつの
とりまき　そいつの！
いじめ　馬鹿が
とりまき　馬鹿が！
いじめ　ちょっとお前黙ってろ！
とりまき　・・・
いじめ　馬鹿なそいつと話してたらそいつの馬鹿がうつるぞ！　クラスのみんなもお前意外全員距離置いてるだろ！
ゆうじん　馬鹿じゃないよ！
いじめ　馬鹿だよバカ。あんな簡単な計算もできないなんて。
ゆうじん　ちがうよ！・・・たださっきは調子が悪かっただけだよ！
いじめ　３＋５は？
少年　１０と３
ゆうじん　今日は、調子が悪かっただけだよ。
いじめ　毎日、調子がわるいんじゃねえか！
ゆうじん　だから―――（いじめっ子につかみかかろうとする）
少年　もういいよ。
ゆうじん　・・・え？
少年　大丈夫。僕が馬鹿なのは本当だから。
いじめ　ほらな？
ゆうじん　・・・
少年　でも、馬鹿はうつったりしないから安心して。
いじめ　・・・けっ

少年　ごめんね。ありがとう。
ゆうじん　なんでさ・・・
少年　何が？
ゆうじん　なんであそこで止めたのさ！
少年　だって僕が馬鹿なのは事実だし。
ゆうじん　そう言うことじゃないんだよ！　朝はあんなに怒ってたじゃないか！
少年　直接言えるわけないじゃないか。

ゆうじん　でも――――

少年　きみだって大人しく話し合って解決するって言ってたじゃないか。

ゆうじん　友達を悪く言われて大人しくなんてできるわけないだろ！

少年　……

ゆうじん　あーもう！　しらない！

少年　……

一同　ゆうじん は にげだした

【5】

少年　あーあ。喧嘩しちゃったな。遊び以外であいつと喧嘩をするのは初めてだ。明日には謝らないとな。・・・なんて言って謝ろう。どんな表情して言おう。なんて言うかな。どう思われるかな。うーん。あら？　なんか段々と楽しみになってきたぞ。

ん？　あの黒の軽自動車は・・・お父さんの車だ！

がちゃ。よし、母さんの靴はない。

ただいまー！　お父さーん！

とうさん　おかえり。

少年　今日は早かったんだね！　いつもは僕が寝た後に帰ってくるのに。

とうさん　今日は仕事が早く終わったんだ。お母さんも今市役所に言ってて、しばらくしたら返ってくるからな

少年　そうなんだ・・・。ねえ、母さんが返ってくる前にお風呂入らない？　一緒に。

とうさん　おお！　どうしたんだ急に。

少年　なんだか一緒に入りたくなって。だめだった？

とうさん　いやいや、全然大丈夫だぞ？　父さんもちょうど風呂を沸かしてるところだったんだ。

少年　やった！

一同　ゆうしゃ は ゆにくろ を はずした

二人、風呂場に移動。

とうさん　学校はどうだ？　楽しいか？

少年　・・楽しいよ？

とうさん　友達は？　お前は少し引っ込みじあんな所があるからな。

少年　大丈夫だよ。友達もたくさんいるし。

とうさん　そうかそうか。それはいい。

少年　うん・・・

とうさん　なんだ。どうした？

少年　いや、別に・・・

とうさん　お前は家族にも引っ込み思案なのか？　大丈夫、話してみなさい。

少年　・・・僕、友達と喧嘩しちゃったんだ。

とうさん　なんだ喧嘩か。

少年　なんだって・・・

とうさん　喧嘩したのなんて初めてだろ？
少年　うん・・・
とうさん　気にすんな、喧嘩なんか。父さんが子供の時もたくさんした。
少年　お父さんも？
とうさん　そうさ？ むしろ喧嘩をしてないと仲良くないまであったな。
少年　喧嘩しないとなかよくない。
とうさん　そう。喧嘩って言うのは、お互いの感情をぶつけ合うものだ。裸の心をぶつけ合うものだ。ある意味、精神上のセック・・・
少年　節句？ 桃の節句とか端午の節句とか？
とうさん　そうさその通り！ 心の中のお祭りさ。
少年　・・母さんとお父さんは？
とうさん　ん？
少年　喧嘩。母さんとお父さんもしたの？ 仲良くないとしないものなんでしょ。
とうさん　そりゃあしたさ。まあ、お前がしたような喧嘩じゃないがな。
少年　どんなの？
とうさん　え？
少年　どんな喧嘩？ 僕がしたのじゃないような喧嘩って。
とうさん　そりゃあ、それこそ肉体的な・・・セック――――
少年　節句？
とうさん　そうだよ！ 節句！ お祭り見たいなにこやかな喧嘩さ！
少年　へえ、それって具体的意に――――
とうさん　ほら！ もういいだろその話は！
他になんかないか？ 最近の話？
少年　最近・・・
とうさん　なんでもいいんだぞ？
少年　今日の朝から声が聞こえるんだ？
とうさん　声？
少年　うん、声。ゲームのなかで流れるみたいな。
とうさん　ゆうしゃはしんでしまった
みたいな？
少年　うん。僕が殴られたとき――あっ、友達と喧嘩して殴られたときとか。あと、朝ごはん食べたとき。
とうさん　なんだ、楽しそうだな。
少年　不気味だよ
とうさん　お前は想像力が豊かだからなあ。昨日ゲームしたか？
少年　したよ？

とうさん　夜更かししたろ
少年　・・・した。
とうさん　だからだよ。寝不足で頭がボーっとしてたんだろ。
少年　友達も同じ事言ってた。
とうさん　喧嘩する前にか？
少年　喧嘩する前に。
とうさん　今日は早く寝なさい。そしたら、明日には聞こえなくなってるよ。
少年　・・・うん
お父さん。最後にひとつ聞いてもいい？
とうさん　なんだ？　なんでも言ってこい。
少年　お父さんと母さんのする、節句？　ってどんなの？
とうさん　え？
少年　喧嘩だよ。お父さんと母さんのする。
とうさん　いや・・・
少年　なんでも答えてくれるんでしょ？
とうさん　いや、そうは言ったが・・・
少年　ねえ、教えてよ。なあに？　どんなことするの？　節句って。
とうさん　あー・・・
もうあがれ！？　あんまり長いこと風呂に入っているとのぼせるぞ！
少年　えー
とうさん　ほら、早く。
少年　せっく――――

一同　ゆうしゃ は ふろ に はいった
まりょく が に かいふく した
ゆうしゃ は ぱじゃま を みにつけ た

少年　す。だということを僕は知っていた。父さんが頑なに隠そうとしたあの言葉がセックスであるということを、僕は知っていた。
ただ、「セックス」がセクシュアルなことを意味する言葉だということだけしか知らなかったから、ちょうどいい機会だと思って「セックス」という言葉の意味を父さんから探ろうとしたのだ。
父さんは僕がした喧嘩を、口喧嘩ではなくこぶしで殴り合うような喧嘩だと勘違いしていた。
つまりそこから僕が推理するに、この「セックス」という言葉は、肉体的接触を伴うものだ。

母さんと・・・。
・・・！
母さんと父さんが、つまり愛し合う二人がする、肉体的な接触を伴うセクシュアルな行為――――
まさかつまりセックスとは――――
ちゅー！？
そう結論付けた僕は、その・・・ちゅーという言葉の響きに興奮が冷めやらなくなり、結局昨日寝たのと同じくらいの時間になるまで目が冴えてしまっていた。
あー、漸く眠くなってきた。気持ちいい感じに瞼が重い。
あー寝れる。やっと寝れる。あと三秒くらで寝れそうだ。
さーん、に、いーち
（ここは少年以外のキャラに言わせていいかも）

一同　はえ が あらわれた。

蠅の音
少年、苛立ちながら蠅をつぶす。

一同　ゆうしゃ は はえ を たおした。
ゆうしゃ は れべる が いち あがった。

少年　なんて声を聴きながら、僕は眠った。
ぜーろ。

【6】

少年　おはようございますおはようございます。僕は小学二年生。元気活発男の子。
昨日は何をしていたっけ。
ああ、そうだ。ちゅーのことを考えていたら、いつのまにか寝てしまっていたんだ。今は大体六時半。あと一時間で家を出なくちゃ。
かあさーん、朝ごはんは。
なあに・・・？

少年　あれ？ 母さんがいない。母さん？
あれ？ なんだこの手紙は？

かあさん　おかあさんは疲れました。しばらく出て行きます。

少年　かあさんが出て行く？ かあさんが出て行く！？
ほんとに？

かあさん　ほんとよ。

少年　あ、答えるんだ。
とにかく、お母さんが出て行った！
この感じだときっと二、三時間とかじゃないはずだ。
大人の「しばらく」は何週間とか何か月のはずだ！あんな窮屈な思いをしなくてすむ！ 一生返ってこなくていいよ！
あー。とりあえずご飯を食べよう。
今日のパンもリョーユーパンのマンハッタン。袋を開けてアルミホイルをしいて、オーブンでチン。このひと手間でだいぶ違う。なんて素敵で優雅な朝食。チン。までの一分間。服を着替えてしまおうか。かけてあるハンガーをとって。

一同　ゆうしゃ は はんがー を そうび した。

少年　来ているパジャマを脱ぎ捨てて。

一同　ゆうしゃ は ぱじゃま を はずした。

少年　着ていく服に袖を通して。

一同　ゆうしゃ は ゆにくろ を みにつけ た

少年　ハンガーをかける。

一同　ゆうしゃ は はんがー を はずした。

少年　あー、やっぱりまだ聞こえるな。昨日も遅くまで起きちゃってたしなあ。

――――チン

と音がした。マンハッタンのチョコの匂い。優雅な優雅な朝の匂い。疑問なんて吹き飛んだ。冷蔵庫を開けて、ミルクを取って、コップに注いで。お皿の右へ。いたいただきまーす。

一同　ゆうしゃ は ゆうがなちょうしょく を つかった。たいりょく が いち かいふく した。

少年　お父さんも言ってたけど、この声も慣れたら賑やかで意外と楽しいのかも。まるでゲームの中に入ったみたいで。

あ、そう言えば昨日寝る前にレベルが上がってたような。ちょっと強くなっちゃってたりして。ふふっ、どうせ幻聴なんだろうけど、気分がいいな。

【7】

少年　優雅なひと時が終わって、おはスタを見て、家を出た。今日は僕しかいないから、行ってきまーす！
いつも通りに二十メートルまっすぐにい歩いて、左に曲がって、五メートル。もう一回左に曲がったところで。
おはよう。

少年　おはよう！
って返ってくるはずの声はここにはなかった。
ああ、そりゃあそうだよ。昨日喧嘩したばっかりじゃないか。
今日仲直りするって昨日、言ったじゃないか。
きっと僕が来る時間から少しずらしてからくるんだろうな。
ちぇっ。
そうだ、待ち伏せしちゃえ。

一同　十分後

ゆうじん、やってくる。

ゆうじん　あ
少年　・・・おはよう
ゆうじん　おはよう・・・
少年　昨日のことなんだけど――――
ゆうじん　僕たちは、喧嘩をしてるんじゃないのかい？
少年　そうだけど・・・、話がしたいんだ。
ゆうじん　昨日言ったじゃないか。もう知らないって。
少年　・・・昨日お父さんに聞いたんだ。
ゆうじん　・・・
少年　お父さん言ってた。喧嘩しないと友達じゃないって、だから――――
ゆうじん　君はお父さんに話したのかい？　昨日のことを。
少年　話したよ・・・？
ゆうじん　なんで話したのさ！
少年　なんでって――――
ゆうじん　僕たち二人の喧嘩だろ！　なんで誰かに言っちゃうんだよ！
少年　だって僕喧嘩なんてしたの初めてで・・・

ゆうじん　僕だって初めてだよ！それでもこれは二人の喧嘩だよ！？自分で考えもしないで！誰かの言葉に頼って！

少年　　…

ゆうじん　…（言葉が出なくなる）。もういいよ

…絶交だ！！

ゆうじん、少年を置いて学校に行く。

少年、ぼーっとしている。

少年　　あーあ。

がらがら。

【８】

少年　二年三組１２番。三号車の前から二番目の右。そこでいつもの授業を受ける。
とうさん　こくご
せんせい　さんすう
かあさん　りか
すきなこ　しゃかい
ゆうじん　たいいく

少年　一番好きなのは
一同　たいいく

いじめ　うぇーい。
とりまき　うぇーい。
少年　好きは好き。
好きは好きだけど、どうも僕は運動神経がよろしくない。
なんせ音速だと思っていたこぶしが、ゆうじん・・・他の人には止まって見えるほどだ。
それに今の僕のメンタリティは最悪だ。ちくしょう！ せっかく今日はクラスのマドンナ、僕の好きな子とドッチで一緒のチームになれたのに！
すきなこ　（可愛らしいポーズ）
いじめ　おい！
とりまき　うん！
少年　あ！ あいつら！ あの子にボールをぶつける気だ！
あの顔！ あいつら好きな子はいじめたくなるタイプか！！ それな！
いじめ　行くぞ！
とりまき　うん！
すきなこ　きゃー！
少年　くそ！ こうなったらもうどうにでもなれ！ もうアウトになってもいい！ 彼女を守るんだ！

全員、スロー。アメイジンググレイスが流れる。
少年、好きなこの前に立ち身を挺して守る。

少年　あれ、なんだ・・・、全てがゆっくりに見える・・・！
ボールも、あいつらも、好きなあの子もみんなスロー。

これなら簡単に取れそうだ！

少年　（呆然としている）
いじめ　なに！？
とりまき　あいつ、とりやがった！
いじめ　まぐれだ！
とりまき　そうだよ！ それに、いくら取れたからって投げるのが弱かったら――――
少年　えい！

全員、スロー。アメイジンググレイスが流れる。
少年が投げたボールがゆっくりといじめの股間に吸い込まれる。
いじめ、せつない顔をしながら倒れこむ。

少年　あたったー！
いじめ　あぁ…
とりまき　ああ！ 大丈夫！？
少年　…

とりまき、いじめの背中を叩いてあげる。

少年　…
すきなこ　運動、できたんだね。
少年　うん。そうみたい。
すきなこ　ありがと。
少年　うん。どういたしまして。

少年　どうやら今日の僕はすこぶる調子がいいらしい。
絶交したことによる心理的なダメージはあまり関係がなかったようだ。
体育だけではなく、他の授業でも――――

せんせい　濡れ手で？
少年　あわ？
せんせい　一寸先は？
少年　やみ…
せんせい　元の？
少年　木阿弥！

せんせい　全部正解じゃないか！
少年　ありがとうございます
せんせい　コツコツと頑張ってきた成果だな！
少年　はい！
せんせい　みんなもこいつを見習って頑張れよー！
一同　はーい。

いじめ　おいお前！
とりまき　おいお前！
いじめ　昼間はよくもやってくれたな！
とりまき　やってくれたな！
いじめ　それにさっきのテストも生意気にも全問正解しやがって！
とりまき　しやがって！
いじめ　…
とりまき　…
いじめ　さっきの仕返しだ！
とりまき　仕返しだ！
いじめ　黙ってろ！
とりまき　そうだ、黙ってろ！
いじめ　おまえがだよ！　喋りにくいんだよ！
とりまき　…（口を手でふさぐ）
いじめ　よし、仕切り直しだ。
さっきはよくもやってくれたな！
今からお前をぎったんぎったんにしてやる
とりまき　ぎっ――――
いじめ　（とりまきを睨んで止める）
とりまき　…
いじめ　覚悟しろよ！　俺の局部をあんな目に合わせたんだ。簡単には済まさないからな！
ふ、ふ、ふ、電気あんまどころじゃないぞ、普段から秘密にしていた数々のプロレスの技をお前にかけてやる！
お前に耐えられるかな。
おむつは穿いたか？　遺書は書いたか？　生前分与のじゅんび――――
少年　長えよ！
とりまき　長えよ！
いじめ　なんでお前そっち側なんだよ！

とりまき　我慢できなくて・・・
いじめ　・・・もういい
おいお前！ いいか、今からお前をぼこぼこにしてやる！
（必死に我慢している）
とりまき　いいよ、もう喋っても。
いじめ　ぼこぼこにしてやる！！ いまさら誤ったって遅いからな！
とりまき　五体満足で帰れると思なよ！ ぎったんぎったんにしてやる！ まともに歩けなくしてやる！
はっはっは、数日間は碌に飯も食えない体にしてやるからな！！
いじめ　しゃべりすぎた！！ 俺が言う分がなくなってんじゃねえか！
もういい！ おいお前ら！ でてこい！

とうさん、かあさん、せんせいが、いじめっこの仲間として出てくる。

いじめ　お前ら！ やってしまえ！

三人、少年に襲い掛かる

少年　うわあああ・・・・・ってあれ？
まただ・・・！ また、さっきの体育の時間みたいにゆっくりになってる！
これなら・・・！ （三人の中の一人を殴る）
すごい・・・！ 力も付いてる！！
おまえら、かかってこーーーい！！

三人、順番に殴りかかる。
三人、順番に全く同じやられ方をする。（留めは股間に攻撃して欲しい）

三人　こ、こいつ、強い！！
いじめ　お前ら馬鹿か！！ なんでしっかり順番守っていくんだよ。全員一斉に飛び掛かれ！
三人　は、はい！

三人、一斉に飛び掛かる。

少年　うわあああああ！！

三人、少年に覆いかぶさるように囲む。
少年、三人をじわじわと押し返す。

【9】

少年　いくら何でもこれはおかしい。
確かに僕は日々研鑽を重ねてきた。でもいくらなんでもこれはおかしい。
どれだけ鍛えても小学二年生が三人の同級生を相手にして勝てるわけないはずだ。そんなこと、もっと長い時間の訓練と経験が――――

一同　経験値！

少年　ズドン
と雷が落ちたように閃いた！
経験値！ 経験値だ！！ 何日か前から僕にだけ聞こえていたあの声！
経験値！ 経験値だと言っていた！！
昨日の夜、敵を倒して……蠅だ！ きっと蠅だ！！ あのとき

一同　ゆうしゃ は はえ を たおした。

少年　と言っていた。

それに　れべる が いち あがった。

一同　とも言っていた！

少年　つまりこれは、僕が蠅を倒したことでレベルが1あがったってことで、
僕が敵を倒すとレベルが上がって、強くなるってことだ！
ん？ ちょっと待てよ？ あの声は僕のことを「勇者」だといってなかったか！？
僕って勇者なのか！？ 勇者なのか！？
ってことはゲームの中の世界みたいに

一同　バシ、バシ、バシ。

少年、剣を振るう。

一同　だだだだだだだ。

少年、魔法を放つ

一同　しかし、効果がないようだ。

少年、魔王に攻撃を受ける。

一同　ぐわっ！ きゅぴきゅぴ、キューン。

少年、快復魔法を自分に掛ける。

一同　　体力が百、快復した。

少年、魔王の攻撃をだまって見つめる。

一同　　会心の、一撃！

少年、攻撃を受けて死んでしまう。

一同　　勇者は死んでしまった。

しばらく笑い転げ、ゆっくりと静かになっていく。

少年、そのまま眠りにつく。

【１０】

少年、目が覚める。

少年　おはようございますおはようございます。僕は小学二年生。元気活発男の子。
昨日は何をしていたっけ。
ああ、そうだった、そうだった！！ レベルが上がったんだった！ ふふふ、まずは腹ごしらえだ。 今は大体六時半。あと一時間で家を出なくちゃ。
かあさーん、朝ごはんは。
なあに・・・？

少年　あれ？ かあさんは？
・・・あー！ そうだった！ 母さんは出て行っちゃたんだ！！ やった！ やった！！
やった――――
かあさん　入るわよ
少年　かあさん！？
かあさん　なに？ どうしたのよ？
少年　かあさん、でていったんじゃ・・・。
かあさん　別に、すぐまた出て行くわよ。ただ忘れ物があって取りに来ただけ。
じゃね。
少年　・・・
とうさん　おーい。そろそろ起きる時間――――
お前！ どこに行ってたんだ！ いきなり出て行って――――
かあさん　手紙置いてたじゃない
とうさん　あんな紙ぺら一枚で納得できるわけないだろ！
かあさん　じゃあ、今からしっかり言います。
今から出て行きます。
とうさん　だから、そんなんで納得できないって！ 理由を言えよ！
かあさん　それも書いてあったでしょ？ 疲れたの。
とうさん　疲れたってなにに
かあさん　全部よ全部。
とうさん　それなら、もう少し話し合ってからでも・・・
かあさん　言ったって聞かないじゃない。いっつも「僕が悪いんだ」って謝ってばっかで話にならないでしょ。
とうさん　・・・

かあさん　じゃあね。
とうさん　…
とうさん　ああ、ごめんな。朝から嫌なもの見せて。

少年　僕はいたたまれなくなって、その場から逃げ出した。
と言ってもまだ身支度をする前だったから外には出れない。
だから、洗面所に逃げ込んだ。
はあ、はあ。
とりあえず顔を洗おう。
…鏡を見ると僕の顔が映っていた。

ゆうじんが鏡の中の少年として鏡面で動く。

少年　ほうほうほうほう。
これはなんともナイスガイ。顔の端々から自信が漏れ出ている。
これはもしかすると、レヴェルが僕の顔にも反映されているのかもしれない。
ほうほう。ほう？　ほうほう。ほうほうほうほう。

一同　がちゃん。ばたん。ぶるるるる。

少年　玄の軽自動車の安っぽいエンジン音、お父さんが出ていった音だ。
もうお父さんったら、僕を起こしに来てくれたくせに、ほったらかしにして出て行っちゃって。しょうがないんだから。

【１１】

少年　優雅なひと時、ではないけど、おはスタも見れなかったけど、家を出た。今日も僕しかいないから、行ってきまーす！
いつも通りに二十メートルまっすぐにい歩いて、左に曲がって、五メートル。もう一回左に曲がったところで。
おはよう。

少年　おはよう！
って返ってくるはずの声はここにはなかった。
ああ、そりゃあそうだ。こないだ喧嘩したばっかりじゃないか。
昨日仲直りするって一昨日、言ったじゃないか。
きっと僕が来る時間から少しずらしてからくるんだろうな。
待ち伏せしちゃえ！
十分間暇だな・・・。何してよう・・・。
そうだ・・・。敵を倒してレベルを上げよう。
蠅を倒しただけで上がったんだ。そこら辺の生き物を倒せば簡単に上がるだろう。
えーっと敵、敵。

一同　はえ が あらわれた。

少年　あ！ 蠅だ。 よーしっ。
一同　パチン。
よっしゃあ一発！
一同　・・・
少年　・・・・・あれ？ レベルが上がらない？ なんで？
えい！ えい！
あれれ？ やっぱり上がらない。
同じ敵じゃレベルは上がらないのかな・・・？
それなら・・・
あ！ あんなところに蝶々が！
とりまきが蝶々として出てくる。

一同　ちょうちょう が あらわれた

少年　それも二匹！

一同　ちょうちょうB が あらわれた。

いじめっこが蝶々として出てくる。

少年　こいつらなら。

えい！ えい！

一同　グシャ！ グシャ！

ゆうしゃ は ちょうちょう を たおした。

れべる が いち あがった。

少年　やった！！

そうか、ゲームの勇者と同じだから、同じ敵ばっかり倒してたらレベルが上がりにくくなるのか。

少年、蝶々をつぶし続ける。

一同　グシャ！ グシャ！ グシャ！

ゆうしゃ は ちょうちょ を たおした。

れべる が いち あがった。

グシャ！ グシャ！ グシャ！ グシャ！

ゆうしゃ は ちょうちょ を たおした。

れべる が いち あがった。

グシャ！――――

ゆうしゃ は ちょうちょを――――

（ここは順番に言うのではなくて全員で段々とぐちゃぐちゃにしていく感じで）

ゆうじん　なにしてるの？

少年　ああ、君か。ちょうどよかった。話しが――――

ゆうじん　なにしてんだよ！

少年　なにしてるって・・・。レベル上げだよ。

ゆうじん　は？

少年　だから、レベル上げ。敵を倒して。知らないの？

ゆうじん　・・・君は、その蝶々を殺したら、能力が上がると思っているのかい？

少年　思ってるんじゃなくて、実際にそうなんだよ。
ゆうじん　そんなことあるわけないじゃないか
少年　実際にあるんだよ。
現に学校の授業とか、いじめられっことの喧嘩とか、
凄い力が発揮されていたじゃないか。
ゆうじん　あれは、君の今までの努力が実を結んだだけだろう！
少年　一日前まであんなにも駄目だったのに？
ゆうじん　っ…。それが、本当だったとしても、だからって、生き物を殺しちゃ…ん？
少年　いや、何でもない。
ゆうじん　いや、何でもない。

ゆうじん　怖かった。
絶交とは言ったけれど、それでもやっぱり友だちだと思っていた彼が、
怖かった。
彼のあの目は、さっきまであんなに楽しそうに虫を叩き殺していあた彼の眼は
――――あまりにも普通だった。
あんなの…、いっそのこと狂った目をしててくれた方がよっぽど救いがあっただろうに。

【１２】

少年　二年三組１２番。三号車の前から二番目の右。そこでいつもの授業を受ける。
とうさん　こくご
せんせい　さんすう
かあさん　りか
すきなこ　しゃかい

少年　一番苦手なのは
一同　さんすう

せんせい　１０＋２は？
少年　１２ですか？
せんせい　５＋６は？
少年　１１ですか？
せんせい　３×６は？
少年　１８ですか？
せんせい　全部正解いじゃないか。
少年　先生！もっと難しい問題を。
せんせい　そのいきやよし！行くぞ！
少年　はい！
せんせい　４２・５×５は？
少年　２１０ですか！
せんせい　１２１の根号は？
少年　１１です！
せんせい　なかなかやるな。いままでまじめにやってきた成果だな！
円周率を５０桁暗唱せよ！
少年　３．１４１５９２６５３５　８９７９３２３８４６　２６４３３８３２７９
５０２８８４１９７１　６９３９９３７５１１
せんせい　残念！
少年　なんですと！？
せんせい　惜しかったな。正解は
３．１４１５９２６５３５　８９７９３２３８４６　２６４３３８３２７９
５０２８８４１９７１　６９３９９３７５１０だ！
少年　ちく、しょう・・・

ゆうじん　僕は、彼を観察してみることにした。
さっきは怖がってしまったけど、やっぱり彼は友達なんだ。
どうにか分かってあげないと。

少年　　かかってこいや！！
いじめ　　この野郎！くらえ！！

少年、軽々とボールをキャッチし、投げ返す。
アメイジンググレイスと共にボールが股間に吸い込まれる。

ゆうじん　彼は勉強も運動も絶好調だ。

少年、好きな子と楽しそうに話している。

ゆうじん　恋愛も。
もしこれが彼の今までの努力が実った結果だというのなら、それはとてもいいことなんだろうけど・・・
彼の話を信じるなら・・・
彼のあの成功は、別の何かを犠牲にして手に入れたものだということになる

少年、絶好調でいじめっ子たちと相対している。

ゆうじん　それが本当だとしたら
僕は――――

【１３】

少年　なんてことを彼が考えてるなんてつゆ知らず、僕は一つの悩みを抱えていた。
レベルが上がらない！
あれから蝶々だけじゃなくていろいろな虫とか爬虫類とかの敵を倒してきたけど、レベルが上がる気配すらない！。いやきっと、少しづつ経験値は入って入るのだろうけど、今の僕のレベルを上げるには少なすぎるんだ。
もっと強い敵を倒さないと！
強い敵、強い敵・・・

好きな子、ウサギとして登場。

一同　うさぎ が あらわれた

好きな子　ぴょんぴょん。ぴょんぴょん。

少年　あ、あんなとこにウサギが！ 学校の飼育小屋で買ってるウサギが！ 僕の好きな子が手塩にかけて育て、もうほとんど家族同然と言ってもいいほど大事にしてるウサギが！ 小屋から脱走してこんなところまで来ているぞ！

少年、ウサギの首を掴む。

少年　この敵を倒したら、レベル上がるかなー？
あーでもそっかあ。あの子のお気に入りだしなあ。
うーん。

少年　まあ、いっか。

少年、ウサギの首を折る。

一同　ゆうしゃ は れべる が いち あがった

少年　やった！
あー、でもそういえばうちって、ウサギは一匹しか飼ってなかったよな。
次どうしよう。
ウサギと同じくらいの敵だったらいいのかな・・・

ん～・・・ そうだ！ 犬とか猫だ！ 犬とか猫なら野良がそこらへんにいっぱい

少年　いるはずだ！
どこだー？
でてこーい！

一同　ゆうしゃ は てき を よんだ。
好きな子以外の全員、犬や猫として現れる。

一同　いぬ と ねこ が あらわれた。

少年　よいしょ！
すべと犬と猫、一気に首の骨を折られる

一同　ゆうしゃ は いぬ と ねこ を たおした
ゆうしゃ は れべる が いち あがった

【１４】

ゆうじん　死んでいた。
かあさん　偶然彼が裏庭から出てくるのを見つけて、
いじめ　彼の手が真っ赤なのに気付いて、
とりまき　心配で、気になって、
すきなこ　彼が遠くに行くのを待ってから、
ゆうじん　そこに行ってみると――――

一同　死んでいたんだ。たくさんの犬や猫が首を９０度に折り曲げられて。

せんせい　折れた足の曲がり角からのぞく、この尖った骨が
とうさん　だらんと力なく口から垂れ下がる、ざらざらしたベロが
かあさん　地面にまき散らされた、真っ赤な泡が

一同　彼がこれだけ殺したんだと、雄弁に語っていた。

とりまき　これは何かの間違いだ
いじめ　というには

一同　あまりにも証拠がそろい過ぎていた

ゆうじん　重ねられていたくすんだ色の山の中に、ところどころ白が混ざっていた。

せんせい　これは
一同　ウサギの毛だ。
とうさん　どこの
一同　飼育小屋の
かあさん　なんでここに
一同　殺されたからだ。
いじめ　どうして
一同　レベル上げだと言っていた
ゆうじん　でもこのウサギは
一同　彼の好きなこの好きな物。

ゆうじん　僕は、彼が解らなくなった。

【15】

少年　うわー、ばっちい。
　手が真っ赤だ。服にもちょっとついちゃった。

とうさん　なんで殺した。
少年　殺したんじゃない倒したんだ
かあさん　なんで殺した
少年　もー。敵だからだよ。
せんせい　敵って何さ？
少年　敵は敵だよ
いじめ　敵って何さ？
少年　決まってるでしょ？ 勇者の敵なんだから
　モンスターだよ。
とりまき　もんすたー？
少年　そうだよ。さっきの犬とか猫みたいに――――
すきなこ　犬とか猫がモンスター？
少年　あと。蠅とか蝶々
ゆうじん　蠅とか蝶がモンスター？
少年　そうだよ。

一同　それじゃあ。

一同　とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ いじめっこは？
　とりまきは？ すきなこは？ ゆうじんは？

少年　は？

一同　だーかーらー！！
　とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ いじめっこは？
　とりまきは？ すきなこは？ ゆうじんは？
　とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ いじめっこは？
　とりまきは？ すきなこは？ ゆうじんは？
　とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ いじめっこは？
　とりまきは？ すきなこは？ ゆうじんは？
　（ぐちゃぐちゃしたかんじで。輪唱？ みたいな）

少年　その人たちは、まだ！！

一同　まだ？

へー

少年　え？

あれ？　なんだこれ。

少年、自分の涙に気付き、倒れる。

【１６】

少年　おはようございますおはようございます。僕は小学二年生。元気活発男の子。
昨日は何をしていたっけ。
ああ、そうだ。昨日はレベル上げをして、疲れてそのまま寝ちゃってたんだ。今は大体六時半。あと一時間で家を出なくちゃ。
おかあさーん
はいないんだ！

とうさん　おはよう
少年　おとうさん？
なんでいるの？
とうさん　お前を一人にしておけないだろ
少年　仕事は大丈夫なの？
とうさん　ああ。ちゃんと会社には言ってきたから。
少年　そうなんだ。
とうさん　…なあ。
少年　ん？　なあに？
とうさん　今までごめんな？　さみしい思いさせて。
少年　どうしたの急に？
とうさん　かあさんとあんな風に喧嘩しちゃっただろ？
それで父さん、いろいろと考えたんだ。
家族をおざなりにしすぎてた
かあさんともちゃんと話をして仲直りを――――
少年　僕は全然大丈夫だよ？
仕事してる父さん好きだし
とうさん　そうか？　ありがとな。
母さんにもそう――――
少年　母さんとももうちょっと時間を空けてから話した方がいいと思うよ
とうさん　そうは言ってられないだろ。このままずっと――――
少年　ずっとこのままでもいいと思うよ
とうさん　…どうしたんだお前、なんかおかしく――――
少年　母さんなんて帰ってこなくていいよ！

【１７】

好きな子、父さんの元妻（少年の実母）として出てくる

とうさん　お前、自分が何をしたのかわかってんのか！？
好きな子　わかってるわよ。わかってるから出て行くんでしょ？
とうさん　出ていくことが償いになるとでも思ってんのか！
好きな子　償いとか、そう言うのじゃないの。あんたもわかってるでしょ？
とうさん　子供はどうするつもりだ！
好きな子　貴方が育てればいいでしょ？
とうさん　そう言うことじゃない！
あいつはお前と一緒に居たいって言ってるんだぞ！
好きな子　うるさいわね。子供なんて連れて行けるわけ無いでしょ。
相手に迷惑。
とうさん　…
好きな子　正直に言うとね、もう嫌なの。
あんなガキの面倒を見るだけで人生食いつぶすのは。自分の一生を過ごせないのは。
さようなら。お世話になりました。
とうさん　…

少年　お母さん！
好きな子　あんたも。じゃあね。せいせいするわ
少年　おかあさん！

父さん、少年を止める。

少年　何するんだよ！
とうさん　もうやめなさい！母さんは出て行くんだ！止めちゃだめだ！
少年　放してよ！僕も付いていく！
とうさん　だからもう――――
好きな子　ついてこないで。迷惑よ。
少年　…

【１８】

とうさん　この子が、僕の子供です。
　　ほら、ちゃんと挨拶しなさい。
少年　　…
とうさん　こらっ
かあさん　ふふふ、照れてるのかしら。（少年の頭を撫でようとする）
少年　　（手を乱暴に振り払う）
とうさん　おい！！
かあさん　大丈夫よ。大丈夫。ごめんね急に。びっくりしたでしょ。
少年　　僕のお母さんは、お母さんだけだ。
とうさん　お前は…っ！
　　この人がお前の新しいお母さんだ。
　　あの人このことは忘れなさい！
少年　　…
とうさん　せめてお母さんと呼びなさい！
少年　　“かあさん”
とうさん　……
かあさん　いいのよ。これからゆっくり馴染んでいけたら。

【１９】

かあさん　ほらこれ、好きなんでしょ。張り切って作ったのよ？。
少年　　…（母さんの手をはじく）

かあさん　ほらこれ、好きなんでしょ。頑張って作ってきたのよ？
少年　　…（母さんの手をはじく）

かあさん　…ほらこれ、好きなんでしょ。作ってきたのよ…？
少年　　…（母さんの手をはじく）

かあさん　ほらこれ――――
少年　　…（母さんの手をはじく）
かあさん　食べなさい！
少年　　母さんの料理は食べたくない
かあさん　あなた、何日ご飯食べてないのよ！
少年　　“お母さん”の料理しか食べたくない。
かあさん　…わかったわよ。
　　私はもうあなたに料理は作らない。
　　ほらこれ、コンビニのパン。これなら食べるでしょ。

少年、パンをひったくり勢いよく食べる。
かあさん、苦しそうにその場を立ち去る。

少年　　お母さんは、お母さんだけだ。

【２０】

少年、動物を殺し続けている。

一同　ゆうしゃ は いぬ を たおした
ゆうしゃ は ねこ を たおした。
（少年が話している内も言い続ける）

少年　そうだよ。僕の“お母さん”はお母さんだけだ。
母さんは“お母さん”じゃない。
おかしいのはお父さんだ。
だって、だって。後から来たのは母さんで。
でもそれは“お母さん”がいなくなったからで
僕は“お母さん”が大好きで、でも“お母さん”は僕が邪魔で。
あれ、あれれ？おかしいな。おかしいなおかしいな。
これだと僕がおかしいみたいだ。
いやいやいやいや。そんなことそんなことそんなこと。

一同　ゆうしゃ は いぬ を たおした

少年　そうだよ。そんなわけないよ。
だって僕は、勇者だよ？
勇者は主人公で正義の味方で、
おかしいわけないんだよ。

いじめっこととりまき、この惨状を見つける。

一同　いじめっこ と とりまき が あらわれた
（半分は「蝶々」と言う）
とりまき、少年に対して何か言っている（蝶々の時と同じ動きで）
少年、取り巻きの声は聞こえていない。「声」がうるさすぎるのだ。

少年　ああ、蝶々だ。

一同　グシャ！

少年　おっ、一発で倒せない。中々強い蝶々だ。
これなら、蝶々ごときでもレベルが上がるかも。

一同　グシャ！
グシャ！
グシャ！
グシャ！
グシャ！
――――

一同　ゆうしゃ は いじめっこと とりまき を たおした
ゆうしゃ は れべる が よん あがった

少年　すごい！！ レベルが4も上がった！
一人当たり2も！
すごいすごいすごいすごい
これは――――あれ？
いま、何を倒したって？

少年、今倒したのがとりまきだと気づく。

少年　うわあ！！
…僕は、今「人」を倒したのか？
しかもこいつは――――
――――やった！！ ついに僕は人も倒せるようになったんだ！
僕はもっと強くなったんだ！

【２１】

ゆうじん　学校の近くで子供の死体が見つかった。
顔をすさまじい力でぐしゃぐしゃにされたらしい。
被害者は・・・、僕らを虐めていたあの二人。
大人たちはこの事件の犯人を猟奇的な殺人鬼だと言っている。
そりゃあそうだよ。こんなこと、子供の力じゃ絶対にできない。
だけど僕はこんなことができる子供を知っている――――いや、
こんなことができる様になっているであろう子供を一人知っている。
きっと彼が・・・

この時、好きな子は四つん這いで逃げている。
その姿はウサギが跳んでいるように見える。
少年、好きな子に追いつき馬乗りになって首を絞める。

【２２】

少年、好きな子をウサギと同じように倒している。

一同　ゆうしゃ は すきなこ を たおした
ゆうしゃ は れべる が に あがった

ゆうじん　・・・何をしているの？
少年　何をって、君は何度も同じことを聞くんだね。
ゆうじん　なんのことだよ
少年　もー、だからレベル上げだよ。
敵を倒して、レベルを上げてるの。
ゆうじん　・・・君は、レベルを上げるためにその子を、君の好きな子を、殺したのかい？
少年　もーおーだから違うって。殺したんじゃなくて倒したの。
ゆうじん　そういうのはどうでもいいんだよ！ 解ってるのか！！ 君は人を殺したんだぞ。
少年　まあ、それはね。でもしょうがないじゃないか。
こういう敵を倒すとレベルが一気に２も上がるんだ。
ゆうじん　・・・っ。
少年　あのふたりを倒したときに気付いてさ～ いや～びっくりしたよ。
ゆうじん　やっぱりあいつは君が・・・
少年　そうそう。
ゆうじん　・・・
少年　あー確かに僕もこの子を倒すのには抵抗があったよ？
でもさ、あのとりまきの奴は別にいいじゃないか。あんだけいじめられ手たんだから。
ゆうじん　おかしいよ
少年　ん？
ゆうじん　君は絶対おかしいよ！ 自分のためにたくさんの生き物を殺して、挙句の果てには人間、しかも君の好きな人まで・・・！
少年　しょうがないんだよ。僕は勇者で、目の前に敵として出てくるんだから。
ゆうじん　何が勇者だよ！ こんなのまるで魔王じゃないか！！
少年　魔王？ 僕が・・・？
ゆうじん　そうだよ
少年　そんなわけないだろ！
ゆうじん　・・・どうした――――

少年　僕が魔王なわけないだろ！！
ゆうじん　どうしたの様子がおかしい――――
少年　魔王なわけないだろ！！ だって声が言ってたんだよ！？
僕が「ゆうしゃ」だって！
勇者が魔王なわけないだろ！！
ゆうじん　話を――――

一同　ゆうじん が あらわれた

少年　ああ、そう言うことか。なるほど。
ゆうじん　いったいどうしたんだよ
少年　君もそうだったんだね。
ゆうじん　なにがだよ！
少年　残念だよ・・・
ゆうじん　待っ――――

少年、友人の首を折る。

一同　かいしん の いちげき

【２３】

少年　まさか彼が敵だったとは・・・ 友達を倒すことになるなんて・・・・・・・・ああ、でもそっか！ あいつとは絶交してたんだった！ じゃあいっか！ 友達じゃないんだから別に倒しても。 あーあ、心配して損した。

とうさん　なんで殺した。

少年　殺したんじゃない倒したんだ

かあさん　なんで殺した

少年　もー。敵だからだよ。

せんせい　敵って何さ？

少年　敵は敵だよ

いじめ　敵って何さ？

少年　決まってるでしょ？ 勇者の敵なんだから モンスターだよ。

とりまき　もんすたー？

少年　そうだよ。さっきの犬とか猫みたいに――――

すきなこ　犬とか猫がモンスター？

少年　あと。蠅とか蝶々

ゆうじん　蠅とか蝶がモンスター？

少年　そうだよ。あと、とりまきとすきなことゆうじん

一同　それじゃあ。

一同　とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？

少年　は？

一同　だーかーらー！！ とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ とうさんは？ かあさんは？ せんせいは？ （ごちゃごちゃした感じで）

少年　その人たちは、まあだ

一同　まだ？

へー

少年　もーうるさいなあ。

ただいまー

【２４】

とうさんとかあさん、性交渉をしている（抽象的な表現でやる。社交ダンスとか）

少年　お父さんと母さんが、裸で、裸で……
お互いに息が荒くて、顔が赤くて――――
これは、これが
セックスだ。
お父さんと母さんがセックスをしていた。
セックスというものをよく知らなくても、判る。
これはセックスだ。

少年　セックスは仲がいい相手ともっと仲良くするためにすることだ。
喧嘩と一緒で、お互いがお互いを傷つけ合って…
――――そのはずなのに、なぜか、なぜかそれが、僕にはとても気持ちの悪いことのように思えた。

少年、嘔吐する。
少年、縋るようにとうさんとかあさんを見る。

一同　おとうさん と かあさん が　あらわれた

少年　僕は、セックスに熱中してる二人の後ろから二人のことを――――

暗転

一同　ゆうしゃ おとうさん と かあさん を たおした
ゆうしゃ は れべる が にじゅう あがった

【２５】

少年　なんで殺した。
殺したんじゃない倒したんだ
なんで殺した
もー。敵だからだよ。
敵って何さ？
敵は敵だよ
敵って何さ？
決まってるでしょ？　勇者の敵なんだから
モンスターだよ。
もんすたー？
そうだよ。さっきの犬とか猫みたいに――――
犬とか猫がモンスター？
あと。蠅とか蝶々
蠅とか蝶がモンスター？
そうだよ。あと、とりまきとすきなことゆうじんとお父さんと母さん
……

一同　敵って誰が決めてるの？

少年　は？

一同　だーかーらー！！
敵って誰が決めてるの？

とうさん　神様？
かあさん　システム？
ゆうじん　世間様？
好きな子　敵自身？
いじめ　常識？
とりまき　偏見？
せんせい　先入観？

一同　そーれーかー！

ゆうじん　君自身なの？

少年　そんなわけ――――

とうさん　君は本当に信じているの？
かあさん　君にしか聞こえない不思議な「声」を
ゆうじん　何かを殺したくらいで上がる能力を
好きな子　ゲームの中の「ゆうしゃ」なんてものを
いじめ　誰かもわからない何かから決められた「敵」なんて存在を
とりまき　「お母さん」がいまだに君のことを思ってるなんてことを
せんせい　「母さん」が君のことを愛していなかったなんてことを

少年　はあ、はあ、はあ、はあ。

一同　君は殺したかっただけだよ！

少年　違う！！
　　僕は敵を――――

一同　僕は殺したかったんだよ！

とうさん　「お母さん」じゃなく「母さん」を愛した父さんを。
かあさん　「お母さん」の居場所を奪った「母さん」を
ゆうじん　喧嘩しちゃったゆうじんを
すきなこ　自分になびかない好きな子を
いじめ　自分をいじめてたいじめっ子を
とりまき　それに手を貸すとりまきを

【２６】

せんせい　きみを叱っていた先生を

少年、先生を殺す。
ここは学校の教室。

一同　ゆうしゃ は せんせい を たおした
ゆうしゃ は れべる が に あがった

少年　あれ？ ここはどこだ。
たしか僕は・・・
家にいた２人の敵を倒して・・・

とうさん　そこのきみ！ 今すぐ投降しなさい。

かあさん　きみの殺したお父さんとお母さんが天国で泣いているぞ！

ゆうじん　今ならまだ間に合う、早くこっちへ！

すきなこ　こちら現場、件（くだん）の少年がクラスメイト及び担任の教師を殺害しました

いじめ　中に入れて！！ 私の子が！ 私の子が！ まだ中に。

とりまき　まて！！ 貴女が今入って行ってなんになる！

少年の周りにはたくさんの屍。クラスメイトの死体。
少年の周りには見方がいなくなった。

一同　けいさつかん と やじうま があらわれた。

少年　ああそうか、また敵か。
やれやれ、勇者は大変だな。
周りはぜえんぶ敵だらけだ

【２７】

一同　バシ、バシ、バシ。

少年、周りの人間を殴って殺す。

一同　だだだだだだ。

少年、銃を撃たれる。

一同　しかし、効果がないようだ。

少年、警察官に後ろから殴られる。。

一同　ぐわっ！きゅぴきゅぴ、キューン。

少年、頭から血を流しながら立っている。。

一同　体力が百、快復した。

少年　警察官たちをじっと見つめている

一同　会心の、一撃！

少年、攻撃をして周りの人間を全員殺す。

一同　ゆうしゃ は けいさつかん と やじうま を たおした
ゆうしゃ は れべる が ごじゅう あがった

少年、笑いながらあおむけに倒れこむ

【２８】

少年、目が覚める。

少年　おはようございますおはようございます。僕は小学二年生。元気活発男の子。
昨日は何をしていたっけ。
ああ、そうだった、そうだった！！ 敵を片っ端から倒しててそのまま楽しくて
寝ちゃったんだ！ 今は大体夜の９時。大体一時間後！

少年、辺りを見回す。

少年　うわあ、辺りが敵の残骸だらけだ。

少年　僕はなんだかばっちくなって、その場から逃げ出した。
と言ってもまだ身支度をする前だったから外には出れない。
だから、トイレに逃げ込んだ。
・・・ふう。
とりあえず顔を洗おう。
・・・鏡を見ると僕の顔が映っていた。

ゆうじんが鏡の中の少年として鏡面で動く。

一同　ゆうしゃのふりをしたまおう が あらわれ た。

少年　・・・ああそうか。
最後の敵は、君かあ。
なあんだ、やっぱり「きみ」の言う通りだったんだ。
あーあー。まあいっか。
「まおう」が最後の敵だなんて、それなりに「ゆうしゃ」っぽいや

少年、鏡を割る。
破片を一つ拾い、喉元に切っ先をそえる。

少年　もし「きみ」が最初の敵だったら、こんなにはなってなかったのかな。

割れてしまった鏡の向こうで、ゆうじんが頷く

少年　　はあ。何回かかるのかなあ。

少年、自分の喉に何度もガラスを突き立てる

少年が刺すたびにダメージの音声が響く。
何度も、何度も。たまに会心の一撃が混ざる
次第に蹲っていき、ついには動かなくなる。
彼の最期の顔は、少しだけ安心していた。

一同　　おお、勇者よ。死んでしまうとは情けない。

暗転

【終わり】

【大道具】
段上げもしくは八百屋舞台。
前後に立っても顔が隠れないようにしたい。

【照明】
時間経過や情景描写ではなく内心描写をメインに表現してほしい。
ド抽象

【音響】
ＳＥはリアルな音と被せてゲームの効果音で表現してほしい。
ＭＥは全体を通して変拍子ちっくな音楽。
ケルトやブラックメタルがいいかも。

【衣装】
具象的な衣装。
いじめっ子←半袖短パン
かあさん←エプロン
みたいな

【制作】
彼は「ゆうしゃ」になり下がる
というキャッチコピーを入れてほしい。
お気に入り

これらのものは「僕が演出する場合の想定」である。
であるので、自分以外が演出する場合はこの限りではない。
役者の性別や台本の内容はニュアンスが伝わるのであれば自由に改変しても構わない。